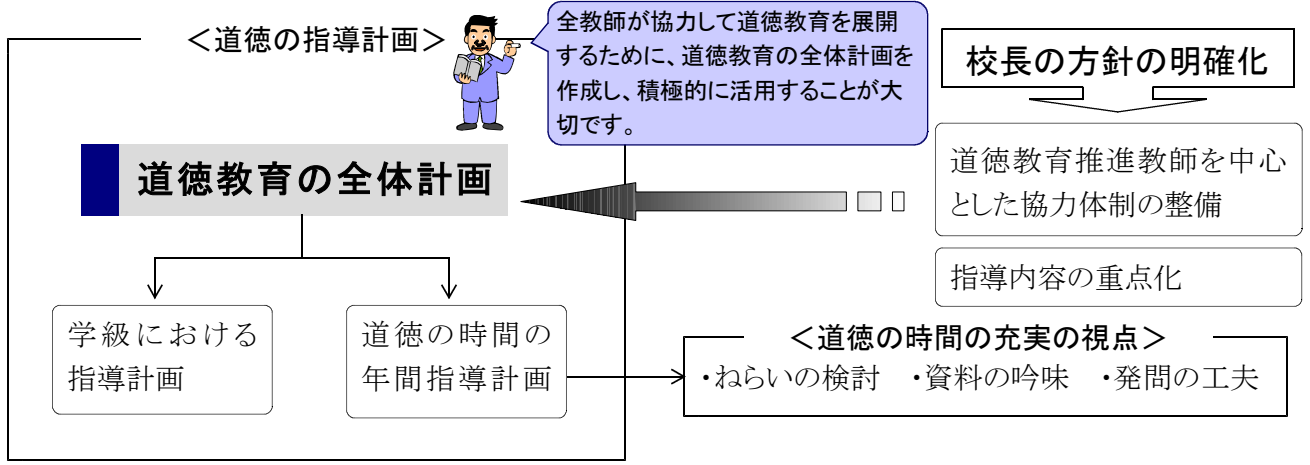


学校教育係

道徳教育の充実・改善



道徳教育の要である道徳の時間を充実させましょう

道徳の時間の充実のためには、「ねらいの検討」「資料の吟味」「発問の工夫」の三つの視点から授業づくりをすることが大切です。以下、具体的な授業づくりの例を紹介します。

- 小学校1年
 - ・ 主題名 「じぶんのちからで」 1-(1)
 - ・ 資料名 「しまの おさるたち」 (学研1年「みんなのどうとく」)

まず、「ねらいの検討」では、学習指導要領の内容項目や児童の実態から、本価値について分析し、「教師の願い」を明確にする必要があります。

私は、子どもたちに「自立の精神」を培いたいと思っているのですが…。

「資料の吟味」では、「教師の願い」を基に、資料の中心的価値を検討することになります。そして、ねらいを具体的に設定します。

健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。《学習指導要領》小1・2年 1-(1)

教師の願い

自分でできることは自分で行おうとする意欲や態度を身に付け、節度ある生活をさせることで、「自立の精神」を培いたい。

《児童の実態》

困難なことや面倒なことは他人の援助を期待する傾向が強い。一人でできたときのうれしさや充実感は理解している。

《資料》

困っているさるたちの心情に着目させ、その後の行為まで考えさせることができるので、自分のことは自分ですることの大切さをわからせ、**意欲**を培うのに適した資料である。

ねらい

だいきざるに頼ってばかりいたために困ってしまったさるたちの気持ちを考えることにより、他人に頼らず、自分でできることは自分でやることの大切さに気付き、自分でできることは進んでやろうとする**意欲**を培う。

ねらいを具体的に設定したら、中心発問が見えてきました。

＜本時の発問構成＞

＜導入＞

自分の生活を想起させる。

＜展開前半＞

○だいきちぎるに、何でもしてもらっていたさるたちは、毎日どんな気持ちでいたでしょうか。

実態を考えると、頼るのが当たり前になっているさるたちの気持ちに共感させ、中心発問につなげると効果的だと思います。

「発問の工夫」では、まず、中心発問を決め、次に、児童がより深く価値を追求できるように、前後の発問を考えたいですね。



◎食べ物がなくなり、うろうろと歩き回るさるたちは、どんなことを考えたでしょうか。

※どうしてさるたちは困ってしまったのでしょうか。困らないために、どうすればよかったのでしょうか。



＜展開後半＞

○だいきちぎるが帰ってきたら、さるたちはどうすると思いますか。

補助発問で、原因と解決方法を考えさせます。そして、次の発問で、その後の行為に目を向けさせようと思います。

＜終末＞

○これから、みんなはどんなことができそうですか。

※一人でできるとどんな気持ちですると思いますか。

家族からのメッセージカードを読ませる。

補助発問で、一人で行った場合の快い感覚を確認しようと思います。